

# そよかぜ 8月園便り

令和4年8月1日（月）

西東京市立そよかぜ保育園

コロナの波が大きくなうねりとなって、そよかぜにも押し寄せています。

保護者の皆様にも度重なる登園自粛のご協力をいただき、誠にありがとうございます。

保育園では「子どもたちが友だちと一緒に遊んだり食事をしたりする」中で共に育ち合っていくことをこれからも大切にしていきたいと考えていますので、今後ともご理解、ご協力の程よろしくお願い致します。

楽しみにしていた「夏祭り」も延期になり、現在「今なら！」というタイミングを見計らっているところです。今年の夏祭りのテーマは『暑い夏を感じ、食べて遊んで乗り切ろう』にしました。企画としては冷やしトマトに冷やしキュウリ、焼きトウモロコシにじゃがバター…と夏ならではの野菜を食べ、水鉄砲・シャボン玉・ヨーヨーつり等を楽しみたいと思っていました。今後の状況によっては、昨年同様「秋祭り」になるかもしれませんが、子どもたちがその時々で季節を感じ、皆で楽しめるものができたら良いなと思っています。

年長さんの「お神輿」も欠かせませんね。今回は保護者の皆さんに見ていただくことができずに残念ですが、実施の際は写真などで様子をお知らせしますので、楽しみにしててください。

先日、ちょっと考えさせられることがありました。

皆さんにご協力いただいた「フードドライブ」ですが、集まった品物を見ながら「これって保育園のご飯になるの？」と聞かれ、「保育園じゃなくて、子どもたちが食べに来る食堂に持って行くんだよ」と言うと、それを聞いていた別のお友だちが「それって貧乏な子に食べさせてあげるんでしょ」と。思わず、「貧乏だからとかじゃなくて、子ども食堂っていうところに持って行って、食べてもらうんだよ」とその場では答えましたが、改めて「子ども食堂」の存在や、その意味について子どもたちと話をしたことがなかったなと思いました。

家族の食事時間がバラバラで、お家で一人で食事をする（**孤食**）子ども多いと言われる昨今、誰かと一緒に楽しくご飯が食べられることや、地域の方たちの目が届くところで安全に食事ができるといった側面もあるので、そういったことも含めて子どもたちが理解できる言葉で伝えていきたいと思います。

もう一つ、子どもたちと一緒に考えたいことがあります。

8月15日は終戦記念日です。理事長コラムでも武田理事長が語っていますが、もう二度と繰り返してはならない戦争について考える時間を持つことは、私たちにとって必要なことだと思います。今は欲しいものは何でも手に入り、食べ物が溢れている時代となっていますが、戦時中の子どもたちはどれだけお腹を空かせて、苦しい思いをしていたことでしょう。

改めて食べたいものが食べられるありがたさを、子どもたちと一緒に感じていけたらいいなと思います。暑い夏、色々なことに想いを馳せる時間を作ってみませんか。

## フードドライブ

今回もたくさんのご協力  
ありがとうございました。



## クラス通信



蒸し暑い日が続いていますね。

子どもたちはタライを使って水遊びやプールをして、涼を取っています。ジョウロやペットボトルシャワーから流れる水に手を伸ばしたり、水面を手で叩いて水しぶきをあげたり、顔に水がかかってもへっちゃらです!“楽しい!”“気持ち良い!”という思いが伝わってくるような笑顔を見せていますよ。

暑さで疲れが出やすい時期、活動と休息のバランスを取りながら、気候に合わせて散歩や園庭遊びなども楽しんでいきたいと思えます。

朝の涼しい時間帯に散歩に出かけ、バスを見つけると「バス、バス」「おーい！」と手を振り、運転手さんがライトを点滅してくれたり、お客さんが手を振ってくれたりするのが見えると手をたたいて喜んでいます。

お部屋では、リズム遊びで「♪うみだうみだ広いな〜、空とどっちが広いだろう♪」を口ずさむと、自然と友達や大人と手を繋いで体を揺らし、「♪ちゃぷちゃぷちゃぷ♪」で手を繋いだまま足踏みして真ん中へ。みんなで集まり、波が戻ると大きな輪になり、笑い声と歌が入り混じり子ども達の“楽しい”の思いが伝わってきて盛り上がっています。また、“水でっぼう”のうたと動きもお気に入り楽しんでますよ。

テラスでの水遊び、園庭でのプール遊びも慣れてきました。

今月も暑さに負けず水遊びや、リズム遊びで夏を乗り越えていきます。



暑さの和らいだタイミングで久しぶりに散歩に行ったり、フットサルコートへ。フットサルコートではまてまて遊び、しっぽ取り、ボール遊び、トントントン何の音など体を動かして遊んでいます。“しっぽ取り”は、まずは大人のしっぽを追いかけることを繰り返し楽しんでいるすずめ組。4月に遊んでいた頃は、なかなかしっぽを取れず途中でやめてしまったり、取れなくて悲しくなったりする姿が多く見られましたが、少しずつ

体力がついてきたことで取れるまで追いかけて続けるお友達が増えてきました。追いかけてやっと取れた時の喜びは、“できた”自信になり「もう一回」という気持ちに繋がります。

また、取ったしっぽを自分のお尻につけて逃げることを楽しむ姿もありますよ。

今月は更に暑くなりますので、水分補給をこまめにしながらプール遊びや水遊びで水にたくさん触れていきます。

プール遊び大好きな子ども達。登園すると「きょうプール入る？」と聞いています。水の中に入ると「つめたい！！」と言いながらも嬉しそうです。まずは座って、顔を洗って…、体に水をかけて…と少しずつ慣れていくことに。最近、顔を水に付ける事にもチャレンジしていて、顔を水の中に入れる子や、口だけを入れる子もいたり、それぞれに挑戦しています。リズム遊びも取り入れて、“うさぎ”や“カエル”ではジャンプして水しぶきが上がると、子どもたちも楽しい声が上がります。ワニ泳ぎをしたり、お尻を付けて上を向いて空を見上げてみたり、水の中で体を自在に動かして感触を楽しんでいます。健康に気を付けながら、夏ならではの遊びを楽しんでいます。



暑い夏でも暑さに負けず、室内でたくさん身体を動かすつばめ組。毎日遊んでいるリズム遊びの中でも何故か必ず一番にリクエストであがるのが“カエル”のリズム。「次何やる??」と聞くと間髪入れずに「カエル！！」とみんなから声。ならばと思い、リクエストがくる前にカエルのリズムを弾くのですが、リズムを終わる前に「カエルやろう」と声。まさかのアンコール！このカエルのリクエストはプール遊びの時にもありますよ。

また、マットを何枚もみんなで運び、相撲対決。“大人を倒そう”とみんながかかって行って力いっぱい押し、倒されてもまた諦めず、、、汗かいた後のシャワーやプールは気持ちいい！！

水遊びが楽しい季節。天気の良い日はプールに入り、プールの中で足をバタバタさせて水しぶきの掛け合いをしたり、ワニさんでフラフープのトンネルをくぐったりして楽しんでいますよ。体が慣れてきたところで、「洗濯機したい！」という声上がり、みんなで「せんたっき！せんたっき！！」と掛け声を合わせてプールをぐるぐる回り、、、みんなの気持ちが合わさると流れるプールになり、気持ちよさそうにぷかぷか浮いていますよ。“ことりことり♪”と大人が両手足をもって優しく投げると、プールにダイナミックにジャンプ！！大きなしぶきをあげながらザブン！！と水の中に入って「もう一回！」と繰り返し楽しんでいます。暑い夏もプールで思い切り遊んでいます。



## 8月 園行事

10日（水）布団乾燥

30日（火）誕生会・避難訓練

## 8月 平和を考える月

ロシアとウクライナの闘いは何時まで続くのでしょうか。世間を震撼させた元首相殺害事件。次々と明るみになる宗教と政治の問題。戦争と気候変動も加わった物価はうなぎ上り。せめてものプール遊びも、気温が高くて入れない・・・感染力の強いコロナにタジタジ・・・社会の秩序や自然の脅威をないがしろにしてきた愚かな人間たちへの挑戦状なのではないでしょうか。

被爆国 日本 1945年8月6日 広島に原爆が投下され、その後8月9日長崎にも投下され、一瞬にして全てを失ったあの日から77年 戦争は過去の出来事としてほしくないのです。

### 「かわいそうな ぞう」

### 金の星社

昭和18年 戦火の激しくなった東京。繰り返される空襲に上野動物園で飼育されている猛獣たちの処分命令がだされました。猛獣が逃げ出したら大変だから、その前に殺してしまうというわけです。

当時の上野動物園にはトンキーをはじめ3頭の象がいました。軍の命令は絶対です。トラ、ライオン、大蛇等次々と処分されていきます。芸達者な人気者のゾウたちも例外ではありません。飼育担当者たちは身を切られる思いで、悩み考えました。飼育担当者は泣く泣く毒入りの餌を与えました。でも利口な象はこの餌を食べようとしません。

仕方がないから餌を与えないで、餓死させようとなりました。トンキーたちは餌をほしがって、一所懸命「芸」をし続けます。やがて ゾウたちは檻の柵に寄り添うように足を上げ、「芸」をしたままの恰好で死んでしまいました。やせ細り、小さくなった死んだ象を前に飼育係のおじさん達は大声で たただだ 泣くばかりでした。・・・

### 「ぞうれっしゃが やってきた」

### 岩崎書店

戦争が終わった後生きのびた象を見たいと全国の子供たちが名古屋の東山動物園に向う「ぞうれっしゃ」。1949年6月1号車は出発。子供達の夢を乗せた特別仕立ての「ぞうれっしゃ」には1万数千人余が乗った。遠くて見に行かれない10万人余の子供たちのために、「アジアと世界全体の平和と協力のために尽くしてほしい」と手紙が添えられ、インド・ネール首相から贈られた小象のインデラ。「インドの子供達から愛情と行為の使者」として上野動物園にやって来た。・・・

### 家族で 一緒に 読んでみましょう。

「♪ ギンギラギンのお天道様 モロコシ畑に…♪」こどもたちの元気な歌声がひびいています。77年前の暑い夏の日 再び子どもたちを戦火に巻き込むことのない様にと、平和を誓い、守ってきたことを、忘れることなく繋げていきたいと願います。

#### 職員のつぶやき

私にはふたりの娘がいます。子どもの忘れられない笑顔は「夏の笑顔」  
仕事上、夜勤の時はお泊り保育・日勤は保育園にお迎えに行き、ナースステーションの椅子に小さい娘を座らせ残業する・・・なんて、今思い出すと毎日必死だった日々がありました。  
そんな環境に私の秋田の実家の父が、「夏は秋田で」と2～3週間、実家に預け、迎えに行くということを夏の恒例としていました。見渡す限り山、田んぼの実家。毎日野山を駆けまわり、田んぼに通い、村のじいさま、ばあさま達に可愛がられ、夏を過ごしていました。そんな娘を迎えに行き、成長して自信に満ちた顔つき、きらきら笑顔を見ると胸がいっぱいになりました。その頃の笑顔が焼き付いていて、今でも思い出しては勇気をもらっています。

いつも子どもに応援されて母になりました。そんな娘も今年21才・19才、それなりに可愛い笑顔(笑)縁あって保育園で働くようになり、できるなら、もう一度子育てしたいなあと思う日々・・・

今回キャンプに行って、「子どもってやっぱりすごい」と実感しました！

羽村たつの子保育園 看護師 関矢 純子